

令和3年度 学校運営等に関する評価書

学校名	和歌山市立川永小学校
作成日	令和4年3月11日

1 教育目標

豊かな心と学ぶ意欲をもち、主体的にたくましく生きる子供を育てる

2 学校自己評価についてのご意見

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・県学習到達度調査で基本問題の正答率が県平均を上回る。 ・毎日の勉強が分かる(児童90%台) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しいと感じる(児童90%台) ・いじめの解消率(100%) ・情報モラル授業を実施する ・朝の挨拶ができる(100%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を整え、感染症予防に留意する。 ・体力の向上を目指し、縄跳びカード等、学習カードを用いて取り組む。 ・休み時間は外遊びを積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動や子供の様子がよく伝わった(保護者90%台) ・学期に1回以上地域の人材を活用する
重点目標に対する意見	<p>○学力の向上には基礎をしっかり定着させることが大切である。○子供主体の授業づくりは、児童の自ら学ぶ意欲を養うことができると思う。○家庭学習や読書は、考える力や学力の向上(読書は心の成長にも)につながり、目標として最適である。これからの学びの大きな力になる。</p>	<p>○道徳・人権教育は豊かな心を育成し、人間として最も大切なことであり、評価できる。○いじめの未然防止、早期発見に取り組む姿勢は、子供たちの心に安心感を与える。いじめの認識なく、やっってしまうこともあり、学校での啓発や子供たちが協働する経験を増やしたり、家庭で話をする機会を増やしていきたい。○高学年の児童たちに今まで以上に低学年のサポートを経験させることにより、リーダーを中心としたチーム学校づくりを通して、社会の中で生きる知恵や力を養うことができる。</p>	<p>○健やかな体の育成は、全ての土台であり、勉強・人間形成にとっても大切なことである。○基本的な生活習慣の確立は幼少期にとっても大切であり、徹底した取組とともに、より家庭への啓発が必要。○安全教育の充実を通して、命を守る取組を続けてもらいたい。○今の子供はネットやゲームなど、幼少期より親しんでおり、そのことが、体力の低下につながっている遠因にもなっている。自分の身を守る交通安全教育、ネット安全教育がとても重要。地域・保護者と連携して取り組む必要があり、食生活を充実させることも体力向上と密接に関係がある。○コロナ禍で外出の機会が減っているため、体力向上の取組をより工夫して行ってもらいたい。</p>	<p>○家庭・地域との連携は、子供の成長を皆で見守ることにつながる。○幼保小の接続・中学校区における学校間連携の推進は長期的視点で子供の理解が深まり、子の成長に責任を持つ取組でも良い。○地域の人材、資源の活用を通じ、地域の力を教育に活かすことができる。○コロナ禍の影響もあるが、可能な限り地域の方と触れ合う機会をつくることで子供の学びや成長につながる。</p>
取組状況に対する意見	<p>○基礎基本の定着のため、毎日宿題を出し続けることは良い取組である。○子供が自分で考え勉強することは自立するために必要。○漢字検定等を実施し、主体的な学習意欲を高めている。○図書の本をよく借りている子が多く、本が好きだと言う。自主的に興味を持ったことを深めていく意欲を感じた。○コロナ禍での制限の中での学びは困難なことが多いが、オンライン学習等よく工夫を凝らしている。○分かりやすく、楽しい授業をすることにより、学力向上に努めている。日々の様々な努力や取組が学力向上につながっていると思う。</p>	<p>○いじめ防止には、アンテナを高くして、未然防止・早期発見に努めることは大切である。○社会福祉協議会が主催した企画での児童の作文には、コロナの早期収束、家族の幸せ、世界平和、地域の絆等を願う優しい気持ちにあふれていた。感受性の豊かさは豊かな心の育成の取組の成果である。○学校が楽しい、友達と仲良くできる児童が多いことは喜ばしい。日頃の取組みの成果が出ている。○リーダーの役割を経験することが、人の痛みが分かり、いじめ防止や人権教育につながる。様々な場面でそういった機会を増やしたい。</p>	<p>○コロナ禍の中、授業を中心に児童の体力向上に努めている。○早寝早起き朝ごはんを推奨し、生活習慣を整え、感染症予防に努めている。○朝早く登校してドッジボールをする子や縄跳び練習をする子等、体を動かすことが大好きな児童が多い。体力の向上につながる。○子供たちが朝食をきちんととっている子が多く、良いことである。○毎日の生活点検表は毎日の生活をリズムを整えるために有効な手立てである。○生活習慣を整えることについては、もっと積極的に啓発活動があつていいと感じる。○今後も交通安全、危機対応を継続的にお願いしたい。</p>	<p>○コロナ禍で地域との交流は著しく制限されているが、学校だより、ホームページ、学級だより等で学校の情報を外部に発信できている。○社会福祉協議会主催のおまつりや標語コンクールには全校児童が参加し、地域との絆を盛り上げることができていた。</p>
取組の適切さの検証結果に対する意見	<p>○日々の取組の成果が表れ、県学習到達度調査で正答率が県を上回り、学力が付いてきていると感じる。○学校が楽しいと感じる子供が95.5%と高いのは取組の成果だと感じる。○児童の約12%が授業がよくわかりにくいと答えているが、長年、放課後フォローアップを続け、基礎基本の定着を図る取組を続けている。その成果が出てきている。○コロナ禍であり、もっとリモート授業が普及すればさらに良いと思う。</p>	<p>○児童アンケートで「学校が楽しい・友達と仲良くしている」がともに95%以上と高いのは、いじめ防止に努める取組の成果だと感じる。これからも油断せず、アンテナを高くして見守ってもらいたい。○いじめについては100%解消できているのはとても良い。○コロナ禍において、感染症に対する偏見等が無いように、各学級において、学習していることはとても良い。○保護者との連携や情報共有、外部講師の授業等が増えればさらに良い。</p>	<p>○コロナ禍のために学校行事が縮小または中止されているが、コロナ感染予防を徹底し学校のできることを模索している。○コロナ禍における感染予防については、3密を避ける、手洗い、消毒、黙食等々、できる限りの工夫を凝らしている。これからは気を引き締めて取り組んでもらいたい。○感染予防には基本的な生活習慣の徹底も大切だと思うので、その取組も継続してお願いしたい。</p>	<p>○コロナ感染予防に終始し、家庭訪問ができず、地域との交流も大幅に制限され、連携がとれず一年だったが、その中でも田植え・稲刈り、町探検、花の植え替え等で地域とのつながりをもって活動できたのがよかった。○コロナ禍で交流が難しいなかだが、地域との交流(竹燈夜・地域のコンクールに参加等)を少しでも行おうと工夫されていた。○学校だよりやホームページ、メール等で迅速に学校のことを知らせようとしてくれた。○今後はタブレットを活用した保護者とのやり取りをもっと取り入れていってよと感じる。</p>
改善年度法に方向性に対する意見	<p>○放課後フォローアップを今後も継続し、基礎基本を大切に取る取組を続け、子供たちみんなが分かる授業を行い続けてほしい。○ゲームを好む子供が多いので、読書の楽しさをより子供たちに伝えてほしい。○継続して取り組んでいる基礎基本を大切に補習や川永タイムの取組や、「書くこと」を意識して取り組んだり、授業の中で自分の考えを書き、出し合い、話し合っ深めていく授業の取組は、学力調査等でも良い結果として表れている。継続して取り組み続けてほしい。</p>	<p>○いじめの無い学校・学級を目指して取組を進めてほしい。○あいさつ運動を継続して取り組んでいるが、いつも元気の良い子や、反対に声が小さく、元気の無い等様々な子供がいる。それぞれに合わせて気持ちの良い挨拶ができるように育ててほしい。○いじめの防止、早期発見、対応に努めるとともに、いじめの芽を出させない日頃の地道な取組をこれからも行ってほしい。○担任の先生をはじめ、教職員がアンテナを高くし、かつ定期的ないじめアンケートや、道徳、人権教育などを推進していくことにより、何でも話せる楽しい、いじめの無い学級づくりをこれからも続けてほしい。</p>	<p>○早寝早起き朝ごはんを今後も推進し続けて欲しい。○安全教育は保護者の意識向上にもつながり、保護者を巻き込んでさらに取組を続けてほしい。○コロナ禍で難しい時期だが、児童の体力向上の取組をこれからも工夫して続けていきたい。○保健だより等で児童の健康への意識を高めてくれているが、さらに取組を進めていただきたい。○基本的な生活習慣の定着は家庭が基本だが、学校でも啓発を続けていただきたい。○交通安全、ネット教育は保護者の意識向上が不可欠であり、お便り等で保護者も学べる機会をさらに増やしてほしい。</p>	<p>○コロナ感染予防を徹底し、参観、懇談会の機会を増やし、学校の状況をホームページやお便り等でさらに発信し続けてほしい。○コロナ禍で、学校を訪れる機会がとて少なくなりました。ホームページなどで行事に加えて日頃の様子などをさらに掲載していただけたら、学校の様子がさらによくわかるようになると思う。機会があれば、学校美化にも参加できるようになればと考える。○コロナ禍で大幅に制限されているが、状況が改善すれば、幼少中の連携をさらに行い、地域や保護者の力を活用できていけばいいと考える。</p>

3. 其他のご意見 ○コロナ感染症防止の影響で、学校は大変だと思うが、今後も「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」等に努力していただきたい。○学校が楽しいと肯定的に捉えている児童が概ね95.5%と昨年より向上していることをうれしく思う。○学校がコロナ禍のなかでも子供たちのためによく工夫し努力していると感じる。今後も取組の継続をお願いしたい。○昨年度は3カ月近く学校閉鎖があったが、今年度は休業することなく、学びの場を存続していただいた。その間の学校の職員の苦労や尽力には頭が下がる。来年度も継続した取り組みをお願いしたい。○教職員の目標管理や評価アンケートも参考にしたい。